

権学俊 (くおん・はくじゅん) 著

朝鮮人特攻隊員の 表象

歴史と記憶のはざままで

サピエンティア 67 / 四六判上製 306 頁

定価 3,520 円 (本体 3,200 円 + 税) / ISBN978-4-588-60367-9 C3321



忘却され消費される物語

植民地支配や戦争をめぐる、戦後 80 年近い今なお日韓で記憶のずれと対立が続いている。日本軍に所属した 36 万人以上の朝鮮人の詳細は、いまだ不明なことも多い。本書は、特攻死した陸軍朝鮮人特攻隊員が新聞や雑誌、映画、ポスター、慰霊碑などでどう扱われてきたのかを分析し、「軍神」「被害者」「裏切り者」といった多様なイメージを押しつけてきた両国の近現代を歴史社会学の視座から考察する。

著者：権学俊 (くおん はくじゅん / 권 학준)

1972 年韓国忠州市生まれ。立命館大学産業社会学部教授。横浜市立大学大学院国際文化研究科博士課程修了。博士 (学術)。横浜市立大学国際文化学部共同研究員、日本学術振興会外国人特別研究員、立命館大学産業社会学部准教授を経て、現職。専門分野は歴史社会学、スポーツ政策論。

主な著書に『国民体育大会の研究——ナショナルリズムとスポーツ・イベント』(青木書店、2006 年)、『スポーツとナショナルリズムの歴史社会学——戦前=戦後日本における天皇制・身体・国民統合』(ナカニシヤ出版、2021 年)、『「知覧」の誕生——特攻の記憶はいかに創られてきたのか』(共著、柏書房、2015 年)、『昭和五〇年代論——「戦後の終わり」と「終わらない戦後」の交錯』(共著、みずき書林、2022 年) など。

おもな目次

- 序章 「朝鮮人特攻隊員」という戦跡
- 第一章 帝国日本による朝鮮支配と戦時動員政策
- 第二章 植民地朝鮮における科学談論と朝鮮総督府の航空政策
- 第三章 朝鮮人特攻隊員の戦死と創られる「軍神」
- 第四章 戦後日韓両国における朝鮮人特攻隊員の忘却と正統性の構築
- 第五章 朝鮮人特攻隊員の再登場と知覧特攻基地戦没者慰霊祭
- 第六章 特攻の語り部・鳥濱トメと「アリラン特攻」物語の広がり
- 第七章 朝鮮人特攻隊員をめぐる多様な表象と歴史認識問題の激化
- 第八章 韓国における朝鮮人特攻隊員の受け入れ難さ
- 終章 朝鮮人特攻隊員の存在は日韓両国に何を語っているのか？
- あとがき
- 索引